多世代が気軽にふらっと立ち寄れる場所

まちづくりのための活動を紹介する場

みんなで楽しく身体を動かすところ

子どもを気兼ねなく連れていける

勉強でもなく図書館でもなく

ただ静かにぼーっとできる場

困った時に駆け込む

相談できるところ

芸術家さんのミニギャラリー

学生がまちへの思いを

プレゼンテーションできるところ

何かやりたい！と思ったりした時に

サポートしてくれる施設

巻頭特集

出会いの玄関口 リニモテラス公益施設

新たなつながりをデザインする場

リニモテラス公益施設が6月1日にオープン。
広く市民の声を反映させ設計から施工まで
地域の人たちが関わりながら、考え作り上げた施設。
つながりや交流が生まれる場として期待されています。

※施設に対する市民の声（一部）を掲載しています

information
長久手市役所
たつせがある課
［電話］
0561-56-0641

みんなで、つくる。
ゆっくりと、つくる。ずっと、つくる。

上）「みんなでつくるリニモテラス施工ワークショップ」。第１回は、長久手産の土を使った土壁塗りなどを体験。市民の手仕事が施設の一部になります。2021.1.23　下）「隣人まつり」の第４弾は、長久手市大学連携推進ビジョン４Ｕによる「学生のまちづくりののろしを上げろ！のろし祭り」と共同開催。2018.9.29

リニモテラス
運営協議会会長
山田将史さん

市外向けに
観光案内の機能を
設けたい

リニモテラス
運営協議会副会長
広中省子さん

気軽に立ち寄り
情報を得られる
施設に

リニモテラス運営協議会
コーディネーター
加藤康次さん

未来を
見据えたまちづくり
活動の拠点に

上）市民が気軽に集まり、まちの未来を語り合う「ながくて隣人まつり」。2018. 7 .22　下）「建築現場見学＆青空会議」。会議では隣接する長久手中央２号公園について話し合い。高校生、小学生の参加者もいます。2020.10.24

市の特徴を生かし新たな出会いを創出

リニモ長久手古戦場駅、古戦場公園、イオンモール長久手に囲まれたエリア。その中核となるのがリニモテラス公益施設です。木材をふんだんに使った内観、三角屋根の外観、建物が完成に向かう様子に注目していた人も多いのではないでしょうか。

施設のコンセプトは「新たなつながりをデザインする場」。図書館や学校のように使い方が決まっている施設とは異なり、「どう使うか」の発想が運用の肝となります。運営は、民間事業者が柔軟な発想で担います。人口が増え続け若い世代が多く、活気のある長久手市。一方で、転入者と地域がつながる場が少ないのが課題です。

長久手市を特徴づける４つのテーマ「大学連携」「観光交流」「多文化共生」「子育て支援」を軸にしながら、その枠にとらわれず、多様なテーマや分野とのつながりを生み出す場をめざしています。

市民の声を積極的採用より身近に感じる場へ

「リニモテラス構想」は、２００８年に策定された「長久手市第５次総合計画」の主要プロジェクトとして掲げられました。リニモテラス公益施設の建設にあたっては、使いやすく、長く愛される施設とするため、市民の声を聴き検討するための時間が設けられました。

２０１８年にはリニモテラス運営協議会（以下、運営協議会）が発足。メンバーは４つのテーマに属する団体を中心に構成されています。公益施設の利用方法やその可能性を学びながら、話し合いを重ねました。活動の実践や実証を繰り返し、その結果、外から中が見える開放感、フレキシブルな会場利用ができる空間づくり、景観配慮、自然との親和性への配慮など、施設整備の基本方針がまとめられ、２０２０年に整備工事がスタートしました。

建築中に「みんなでつくるリニモテラス施工ワークショップ」を開催。参加者は職人の指導のもと、土壁塗りや芝生張りなどを体験しました。オープン後も、利用するだけでなく、施設のメンテナンスに参加することで、より施設への愛着が育ちます。

リニモテラスを舞台に新たな物語を描く

運営協議会は、施設オープン後も運営に携わります。山田将史会長は、「リニモテラスでの活動をきっかけに、市民の皆さんに長久手にもっと愛着を持ってもらいたい。市民が『共働』し、わがまちの課題を自分ごととして考え、長久手の新たな文化を一緒に作っていきたいです」と語ります。

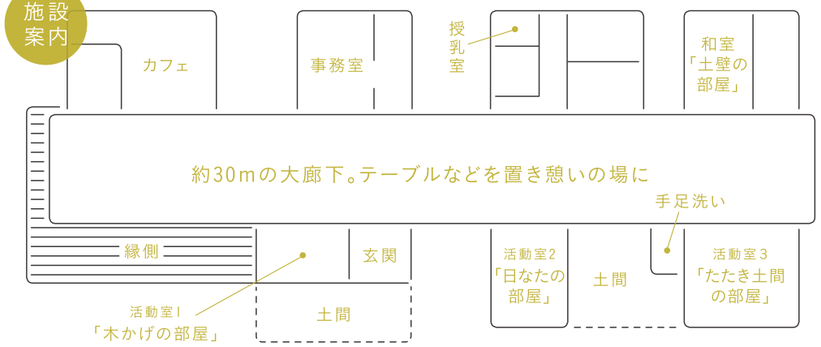
副会長の広中省子さんは「引っ越してきて知り合いがいない、初めての子育てで友達がいない、そんな人たちも買い物ついでにふらりと立ち寄ってほしい。いろいろな人と出会い、交流するなかで、人とつながる楽しさを実感し、価値観が変わっていく、そんな場になればうれしい」と話し、新たな施設に期待が高まります。

コーディネーターの加藤康次さんは、「普段は耕作放棄地を使ったまちづくり活動もしており、リニモテラスで何をしたいかのアイデアを募る『１００プロジェクト』にも参加しました。使われてこその施設、市内外の人に活用してもらい、つながりが広がってほしいです」と思いを話します。

取材中、山田さんが「リニモテラスを舞台に生まれた物語を絵本にしてはどうでしょうか」と発案。対話のなかからさまざまなアイデアが生まれ、新たなまちづくりの物語が始まります。

木造平屋。愛知県産のヒノキやスギを中心に使用。南北に約30ｍ伸びる大廊下があり、廊下に面して予約制の活動室を設置。テークアウト中心のカフェもオープン

施設案内



文／栗本洋子　写真／tracks 森澤直人、大西あすか　写真提供／リニモテラス運営協議会　デザイン／chica